

ていると考えられる。

## 謝辞

末筆ながら、問い合わせに応じてくださった新井浩二、堀繁久の両氏、貴重なデータを提供してくださった幸形聡氏、ならびに草稿を読んでくださりご指摘をくださった小島弘昭、森本桂、野村周平の3博士に心よりお礼申し上げる。

## 引用文献

- Anonymous, 1917. February 3rd, 1916. Proceedings, Hawaiian Entomological Society, 3(4): 266–268.
- Beardsley, J. W., 1966. Insects and other terrestrial Arthropods from the Leeward Hawaiian Islands. Proceedings, Hawaiian Entomological Society, 19(2): 157–185.
- Blatchley, W. S., 1922. Notes on the Rhynchophora of eastern north America, with characterizations of new genera and descriptions of new species. Journal of the New York Entomological Society, 30(3): 113–127.
- Blatchley, W. S. and C. W. Leng, 1916. Rhynchophora or weevils of north eastern America. 682pp., Indianapolis, The Nature Publishing Company.
- Caribbean Insect & Plant Database (<http://insects.oeb.harvard.edu/caribbean/>). カリブの昆虫と植物のデータベース, ハーバート大学. 2014年3月閲覧
- Champion, G. C., 1909. Rhynchophora. Biologia Centrali-Americana IV. Pt. 7, 1–177pp., Smithsonian Institution.
- Chūjō, M. and E. Voss, 1960. Neue Curculioniden-Subfamilie, -Gattungen und -Arten von Japan (Coleoptera, Curculionidae). Memoirs of the Faculty of Liberal Arts & Education, Kagawa University (Part II), (94): 1–17.
- Fosberg, F.R., 1962. A brief survey of the cays of Arrecife Alacran, a Mexican atoll. The Pacific science board, National Academy of Sciences (National Research Council), Atoll research bulletin, 93: 1–25.
- Konishi, M., 1962. Taxonomic studies on the Cossoninae of Japan (Coleoptera : Curculionidae), Part 1. Insecta Matsumurana, 25(1): 1–17.
- 平野幸彦・上田康之・渡 弘・吉田篤人, 1993. 伊豆新島産甲虫類採集報告. 神奈川虫報, (104): 1–12.
- Hlaváč, P. and N. Maughan, 2013. Cossoninae. 217–229pp., Löbl, I.

- and A. Smetana eds., Catalogue of Palaearctic Coleoptera Vol. 8, Brill
- Hong, K. -J. Park, S. and K. Han, 2012. Arthropoda: Insecta: Coleoptera: Curculionidae: Curculioninae, Cossininae, Mesoptiliinae-Weevils II. Insect Fauna of Korea, 12(7): 1–179.
- Horn, G. H., 1873. Contribution to a knowledge of the Curculionidae of the United States. Proceedings of the American Philosophical Society, 13(91): 407–469.
- 小島弘昭, 2012. 山形県飛鳥のゾウムシ上科甲虫相. さやばねニューシリーズ, (6): 31–34.
- 楠井善久, 1990. 奥尻島の昆虫 (III) - オトシブミ科・ゾウムシ科・オサゾウムシ科 -. Jezoensis, 17: 48–53.
- 森本 桂, 1985. キクイゾウムシ類概説 : III. キクイゾウムシ亜科 (2). 家屋害虫, (23,24), 19–28.
- 森本 桂, 2001. 南鳥島の昆虫採集記. 北九州の昆虫, 48(2): 71–75, 2 pls.
- Morimoto, K. and S. Miyakawa, 1985. Weevil fauna of the Izu Islands, Japan (Coleoptera). Mushi, 50(3): 19–85.
- 日本林業技術協会, 2003. 添付資料 : 2. 生物種リスト (小笠原固有種・昆虫リスト). 46–101pp, 平成 14 年度小笠原地域自然再生推進調査報告書.
- Peck, S. B., 2006. Superfamily Curculionoidea. 253–280pp., The Beetles of the Galápagos Islands, Ecuador: Evolution, Ecology, and Diversity (Insecta: Coleoptera). NRC Research Press.
- Perkins, R. C. L., 1900. Coleoptera Rhynchophora, Proterhinidae, Heteromera and Cioidae. Fauna Hawaiiensis Vol. II, Part III, Coleoptera I, 117–270pp.
- Perkins, R. C. L., 1926. Coleoptera, weevils. Insects of Hawaii, Johnston Island and Wake Island. Bernice P. Bishop Museum Bulletin, 31: 53–66.
- Ivie, M. A., K. A. Marske, I. A. Foley and L. L. Ivie, 2008. Appendix 2. Species lists of the beetles, non-beetles hexapods and non-hexapod invertebrates of Montserrat. 237–311pp., A Biodiversity Assessment of the Centre Hills, Montserrat, Durrell Conservation Monograph No.1, Durrell Wildlife Conservation Trust.
- Staub, F., 1970. Geography and ecology of Tromelin Island. Atoll Research Bulletin, (136): 197–209.
- Zimmermann, E. C., 1940. Synopsis of the genera of Hawaiian Cossoninae with notes on their origin and distribution (Coleoptera, Curculionidae). Occasional papers of Bernice P. Bishop Museum, 15(25): 271–293.

(2014年4月9日受領, 2014年6月3日受理)

## 【短報】オビモンコミズギワゴミムシの広島県からの記録

オビモンコミズギワゴミムシ *Tachyura ceylanica* (Nietner, 1858) は, Ceylon を基準産地として記載された, 体長 1.8 ~ 2.0 mm 程度の小型のコミズギワゴミムシである. 我が国からは, Tanaka(1959) により神奈川県平塚市で採集された標本を基に報告されたのが最初である. 中根(1978) は, 海外の分布域としてセイロン (現・スリランカ), インド, ビルマ (ミャンマー), マレイ (マレーシア), フィリピン, セレベス (スラウェシ), 南支 (中国南部) を挙げている. 国内の記録は少なく, 前述の神奈川県平塚市の他に, 石垣島 (Habu, 1975), 東京都 (和泉, 1990), 神奈川県内数ヶ所 (平野, 2004) の

記録があるにすぎない.

昨年, 筆者は, 広島県で本種を採集しているのここに報告する.

3exs. (図 1), 広島県竹原市吉名, 28. IX. 2013.

瀬戸内海に面する塩湿地での灯火採集で得られたものである. その後, 数回にわたり地表の探索, 灯火採集を試みたが追加することは出来なかった. 本種の国内での報告例が少ないのは, 同定自体が難しいことのほか, 埋め立て, 護岸工事, 水質悪化等によってその生息環境の減少によるものと思われる. これまでの採集地から, 本種が河口や塩湿地などに依存していることが示唆されるが, 和泉(1990)の記録は, 森田誠司氏によると, 東京都大田区内の落葉下から採集された模様で, 海浜

性の種とみなすには否定的な見方もあるため、今後も調査を続行していきたい。

なお、今回、森田誠司氏により、つくばの農業環境技術研究所に所蔵されている標本（田中和夫博士採集の平塚産）と直接比較されたうえ、さらに、Andrewes (1925) の再記載ともよく一致することが確認された。

末筆ながら、同定、文献のコピー、ならびに原稿の校閲の労をとって頂いた森田誠司氏に厚くお礼申し上げます。

#### 引用文献

- Andrewes, H. E., 1925. A revision of the Oriental species of the genus *Tachys*. Annli. Mus. civ. Stor. nat. Genova, 51: 327-502.
- Habu, A., 1975. Carabid beetles Mr. A. Sugimoto taken in Ishigaki Is., Ryukyus, by a black-light trap (Coleoptera, Carabidae). Ent. Rev. Japan, Osaka, 28: 69-84.
- 平野幸彦, 2004. コウチュウ目 Coleoptera. 神奈川県昆虫誌II :335-835.
- 和泉敦夫, 1990. 東京都のゴミムシ3種の記録. 甲虫ニュース, (90) : 6.
- 中根猛彦, 1978. 日本の甲虫(48) ごみむし科2. 昆虫と自然, 13(4) : 14-18.
- Nietner, J., 1858. Descriptions of new Ceylon Coleoptera. Ann. Mag. nat. Hist., (3)2: 418-431.
- Tanaka, K., 1959. Notes on the Carabidae from Japan and Formosa (Coleoptera). Kontyû, 27: 218-220.

(大塚健之 732-0062 広島市東区牛田早稲田 1-11-2)

#### 【短報】イシガキカタキバゴミムシ長崎県の記録

イシガキカタキバゴミムシ *Badister (Baudia) ishigakiensis* Habu, 1975 は、石垣島を基準産地として記載され、トカラ列島島島が北限となっている種である (Habu, 1975; Morita, 1994)。今回、九州本土の長崎県で採集し、本種生息地の北限となると思われるのでここに記録しておく。

1♀, 長崎県長崎市野母崎樺島町, 22. IX. 2012, 深川採集, 森田氏同定・保管。(図1)



図1. オビモンコムズギワゴミムシ。

採集地は、昭和49年に造られた地下ダムの地表にできた水辺で、水田の畦道に似た環境となっている。地下ダムは、地中に遮水壁をつくって、地下水の流れをせき止めることにより、地下水をためる構造であり、本地が日本で最初の場所である(図2)。



図1. 採集個体。

土壌は粘土質で、ヨモギ、ウマゴヤシ類などの植物が疎生している。年に1, 2回管理のため草刈が行われており、増水時には水没することもあるためか、植物の背丈が低い状態で維持され、水分を多く含んだ土壌となっている。

採集日は、日中から継続して雨となっていたため、夜間の採集時には泥がぬかるむ状態となっていた。また、本種以外にホソツヤナガゴミムシ *Abacetus leucotelus* Bates, 1873 が多数確認され、ライトで照らしながら手で直接採集していたが、本種は、これら採集個体の中に紛れ込んでいたものである。

長崎は、1571年から国内唯一の開港地として知られた場所であり、モンキタマムシ *Ptosima chinensis* Marseul, 1867 やキマダラカメムシ *Erthesina fullo* (Thunberg, 1783) など長崎以外から持ち込まれたと思われる種が知られている。本種もその可能性を否定できないものの、少なくとも本種が生息できる環境が長崎に存在していることは確かである。なお、2013年は、3月から毎月同地で採集を行っているが、個体を追加するに至って



図2. 生息地の環境。